

急峻な地形と 日本有数の多雨が生み出す おわせ 尾鷲ヒノキ林業

OWASE
FROM JAPAN
HINOKI

日本農業遺産
平成29年3月認定

三重県尾鷲市・紀北町地域

三重県尾鷲市・紀北町では、痩せ地で樹林の生長が遅いという不利な条件を逆手に取り、苗木を密植し間伐を繰り返すことで、高品質なヒノキを生産する技術が発達しました。古くから森と海とのつながりを意識し、生物多様性にも配慮した森林管理が行われてきました。



歴史と伝統を有する尾鷲ヒノキ

強く美しいヒノキの育林システム

一般的なヒノキの植栽本数の倍以上、6,000～10,000本/haの密植を行い、枝打ち技術を駆使し、無節や上小節といった良質な心持ち材を生産してきました。

ヒノキを活かす技と知恵



尾鷲ヒノキの持つ、年輪が緻密で油脂分に富み、強く美しいという特徴を最大限生かすため、最も価値が高くなるような丁寧な製材を行う技術が培われてきました。



林業活動がもたらす生物多様性



沿岸部は魚つき林として保護してきており、当地域の豊かな漁業資源の保全・維持に大きく貢献しています。

優れたランドスケープと熊野古道



世界遺産“熊野古道”の石畳の両側に林立するヒノキ林は地域固有のランドスケープを形成しており、景観的にも歴史的にも、重要な地域資源となっています。

日本農業遺産認定後の主な取組状況

尾鷲ヒノキの需給拡大

尾鷲ヒノキの付加価値向上・供給体制強化



知識・技術の継承

伝統技術の継承と後継者育成



地域との連携

地元の人・文化・自然とのつながり



- 「尾鷲ヒノキ」ブランド認定要綱作成や「尾鷲ヒノキ」ブランドマークの作成などブランド力強化の取組実施
- 公共建築物や住宅への木材の率先利用
(R4:住宅新設2棟、リフォーム2棟、公共施設2施設)
- 県内大規模市場における特別市の実施
(R4:2回)

- 日本農業遺産「尾鷲ヒノキ林業」マニュアル作成
- 尾鷲ヒノキ林業の普及・啓発に向けたモデル林の整備
(R4:48ha実施)
- 優良なヒノキ苗の生産体制の強化
(H28:11,310本→R4:34,000本)
- 伝統的全幹集材のための技術講習会
(年1回実施)

- PR用のパンフレットやWEBサイトの作成
- FSC認証森林の増加による生物多様性の確保
(H28:4,477ha→R3:10,117ha)
- 小中学生向けの伝統的尾鷲ヒノキ林業の森林教育
(H28:4校→R4:12校)
- 間伐材等のアオリイカの産卵床への有効活用
(R4:17箇所)
- 尾鷲ヒノキをフィールドとした観光イベント
(R4:374名)
- 木と触れ合う機会(クッパ競技)の普及
(R4:100名参加)

OWASE
FROM JAPAN
HINOKI
「尾鷲ヒノキ」
ブランドマーク



福祉関係者と連携した苗木生産

尾鷲ヒノキ
林業
マニュアル



アオリイカの産卵床への間伐材等の利用

公共建築物
(尾鷲市役所)
木質化の
実施



熊野古道等をフィールドとした観光イベントの実施